

火気使用作業許可証

注意!

可能な限り、火気使用作業を避けるか、火気を使用しないより安全な方法を検討すること。

本火気使用作業許可書は、熱や火花が発生するあらゆる一時的な作業を火気使用作業指定エリア外で行う際に必要です。それには、ろう付け、切削、研磨、はんだ付け、トーチ工法による屋根ふき、溶接などが含まれます。

許可書承認者の手順

1. 右記のチェックリストをすべて確認。
2. **パート1**を完了し、保管。
3. 作業者に**パート2**を発行。
4. 後日の参考のため、**パート2**を保管(パート2には常時火気監視と点検など、残り火の確認を完了したことを証明する署名入りの許可証が含まれる)。
5. **パート2**の最終点検を完了。

パート1

チェックリスト

(該当項目にチェックすること)

はい 該当なし

- 消火ポンプは使用可能で、かつ自動起動モードになっている。
- スプリンクラー設備の制御弁は開いている。
- 消火器は使用可能な状態になっている。
- 火気使用作業に使用する道具・機械類は適切に整備されている。

作業場所周辺10 m (35フィート) 以内

- 可燃性建築材料を (FM認証品等の) 溶接パッド、ブランケット、カーテンにより保護。
- 移動不可能な可燃物を (FM認証品等の) 溶接パッド、ブランケット、カーテンにより保護または撤去。
- 可燃性ガス、液体、塵、埃から潜在的な発火源を隔離 (装置の停止など)。
- 可燃性液体、塵、埃、残留物を除去。
- 換気装置、コンベヤを停止。
- 開口部、もしくは裏側に熱を伝える材料が存在する場合、その裏側でも可燃物の除去及び火気の監視を行う。
- 可燃性の建築材料を用いての作業がある (トーチ工法による屋根施工作業等) 場合、追加要求事項に従うこと。

密閉型装置、ダクト、配管上/内での火気使用作業

- 装置を停止。
- 可燃性液体を除去及び、可燃性ガス/蒸気を除去。
- 作業前及び作業中に、可燃性ガス/蒸気を監視。
LEL (爆発下限濃度) の読み取り値: _____
- 可燃性塵、埃もしくは他の可燃物を除去。
- 取り外し不可能な可燃性のライニングもしくは部品を備えた装置上/内での作業がある場合、追加要求事項に従うこと。

火気使用作業エリアの火気監視と巡回

通常、下記記載の時間で十分です。可燃性の密閉空間、屋根工事、または望ましい要素については、許可証裏面の表を参照してください。

- 作業中は火気の監視を常時行うこと。
- 作業終了後、以下の時間にわたって火気の監視を常時行うこと
 - 1時間または _____ 時間。
- その後さらに以下の時間にわたって火気巡回を行うこと
 - 3時間または _____ 時間。

追加要求事項:

火気使用作業者

従業員

外部業者 _____

日付

作業番号

作業場所 (建物、床、対象物)

実施作業

火気使用作業者

火気監視者

私は、作業現場の点検を実施し、火災予防策が全て取られていることを確認しましたので、本作業を許可します。

許可書承認者 (署名及びサイン)

許可期間 (承認は1回のシフトに限る):

日付: _____ 時間: _____ 午前/午後

注意: 緊急連絡先は裏面を参照のこと。

その他のFMグローバルの資料:

Property Loss Prevention Data Sheet 10-3 of the Hot Work Management

火気使用作業許可証のアプリは、fmglobal.com/appsからダウンロード可能
火気使用作業許可証 (F2630_JPN) は、fmglobalcatalog.comからダウンロード可能

オンライン・トレーニングは、training.fmglobal.comからダウンロード可能

FM認証品の設備機械は、fmapprovals.comからダウンロード可能

FM Global

F2630_JPN © 2018 FM Global.

(01/2018) 無断複写・転載を禁じます。

注意!

火気使用作業実施中! 火災に注意!

手順

火気使用作業者:本許可書に作業開始時刻を記入し、作業現場の分かりやすい場所に掲示すること。作業終了後は作業終了時刻を記入し、火気監視・点検のために本許可書を掲示したままにすること。

火気監視:火気使用作業中及び作業後、作業現場を監視すること。作業現場を立ち去る前に最終点検を行い、本許可書を掲示したまま火気巡回または許可書承認者に作業終了報告をすること。

火気巡回:作業後の火気監視後にエリアを監視。最後の定期点検を行い、本許可書に署名の上、許可書承認者に返却すること。

火気使用作業者

従業員

外部業者 _____

日付

作業番号

作業場所 (建物、床、対象物)

実施作業

火気使用作業者

火気監視者

私は、作業現場の点検を実施し、火災予防策が全て取られていることを確認しましたので、本作業を許可します。

許可書承認者 (署名及びサイン)

許可期間 (承認は1回のシフトに限る):

日付: _____ 時間: _____ 午前/午後

火気使用作業日: _____ 作業開始時刻: _____ 午前/午後

_____ 作業終了時刻: _____ 午前/午後

作業後の火気監視 _____ 作業終了時刻: _____ 午前/午後

氏名

火気巡回 作業者 その他 _____ 作業終了時刻: _____ 午前/午後

氏名/その他

最終点検 _____ 時刻: _____ 午前/午後

氏名

F2630_JPN © 2018 FM Global. (Rev.01/2018)

無断複写・転載を禁じます。

パート2

チェックリスト

(該当項目にチェックすること)

はい 該当なし

- 消火ポンプは使用可能で、かつ自動起動モードになっている。
- スプリンクラー設備の制御弁は開いている。
- 消火器は使用可能な状態になっている。
- 火気使用作業に使用する道具・機械類は適切に整備されている。

作業場所周辺10 m (35フィート) 以内

- 可燃性建築材料を (FM認証品等の) 溶接パッド、ブランケット、カーテンにより保護。
- 移動不可能な可燃物を (FM認証品等の) 溶接パッド、ブランケット、カーテンにより保護または撤去。
- 可燃性ガス、液体、塵、埃から潜在的な発火源を隔離 (装置の停止など)。
- 可燃性液体、塵、埃、残留物を除去。
- 換気装置、コンベヤを停止。
- 開口部、もしくは裏側に熱を伝える材料が存在する場合、その裏側でも可燃物の除去及び火気の監視を行う。
- 可燃性の建築材料を用いての作業がある (トーチ工法による屋根施工作業等) 場合、追加要求事項に従うこと。

密閉型装置、ダクト、配管上/内での火気使用作業

- 装置を停止。
- 可燃性液体を除去及び、可燃性ガス/蒸気を除去。
- 作業前及び作業中に、可燃性ガス/蒸気を監視。
LEL (爆発下限濃度) の読み取り値: _____
- 可燃性塵、埃もしくは他の可燃物を除去。
- 取り外し不可能な可燃性のライニングもしくは部品を備えた装置上/内での作業がある場合、追加要求事項に従うこと。

火気使用作業エリアの火気監視と巡回

通常、下記記載の時間で十分です。可燃性の密閉空間、屋根工事、または望ましい要素については、許可証裏面の表を参照してください。

- 作業中は火気の監視を常時行うこと。
- 作業終了後、以下の時間にわたって火気の監視を常時行うこと
 - 1時間または _____ 時間。
 - その後さらに以下の時間にわたって火気巡回を行うこと
 - 3時間または _____ 時間。

追加要求事項:

注意

火気使用作業実施中! 火災に注意!

緊急の場合には、消火を試みる前に、以下に記載の連絡先に通報すること。

連絡先	番号

建物と施設に応じた火気使用作業後の残り火の監視、および火気巡回の時間

	建物の要因						
	不燃性構造、またはFM認証クラス1あるいはクラスAの建築材料		密閉空間のない可燃性建築物		消火設備がない密閉空間のある可燃性建築物		
	監視	巡回	監視	巡回	監視	巡回	
施設の要因	不燃物及び密閉型装置内に収容されている可燃物 (配管内の可燃性液体等)	30分	0時間	1時間	3時間	1時間	5時間
	可燃物の量が限られているオフィス、小売店舗または製造施設	1時間	1時間	1時間	3時間	1時間	5時間
	以下を除く、中程度から大量の可燃物が存在する製造施設	1時間	2時間	1時間	3時間	1時間	5時間
	倉庫	1時間	2時間	1時間	3時間	1時間	5時間
	例外: ゆっくり火災を延焼させる可燃物を処理したり、このような可燃物が大量に保管されている施設 (紙、パルプ、織物繊維、木材、樹皮、穀物、石炭または木炭等)	1時間	3時間	1時間	3時間	1時間	5時間

トーチ工法による屋根施工作業を行う場合、追加の予防措置を講じ、2時間以上にわたる火気監視と2時間の火気巡回を実施してください。赤外線カメラを使用する場合、火気監視と火気巡回を1時間に短縮することも可能です。

取り外し不可能な可燃性のライニングもしくは部品を備えた装置上/内で火気使用作業を実施する際、追加の予防措置を講じ、上記表1に従って、装置内および周囲のエリアで1時間の火気監視と3時間の火気巡回を実施してください。

